

シネマ203

北ぶらくり丁の小さな映画館

たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁の小さな映画館で、冒険がはじまりました。
アパートの扉の奥の一室で、大きなスクリーンと、包み込むような音響が
好奇心旺盛なあなたをお待ちしています。

ドキドキするような世界の映画との出会いがある。
ここは、異国への入口／異郷への出口。

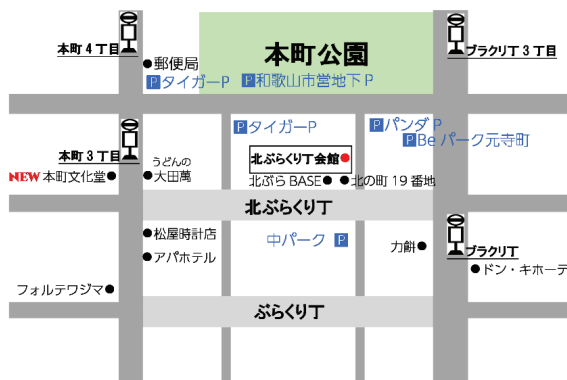
和歌山の皆さま、月に2時間の小旅行へようこそ。

🎫 入場料金 (基本料金)

一般：1,700円 / 大専：1,500円 / 小中高：1,000円

- ※ 当日入口にて現金のみ。各回上映10分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。
- ※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくはHPやチラシにて。

最新スケジュール →



📍 **アクセス** [北ぶらくり丁会館 2F] 本町公園より徒歩1分
北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い通りに
[北ぶらくり丁会館]の鉄看板アリ。奥の赤い階段を2階へ。

🚶 **【駅から徒歩／バス】**
和歌山市駅より徒歩10分／バス1～2分(800m)
和歌山駅より徒歩25分／バス5～9分(2km)

北ぶらくり丁会館 203号室

シネマ203

cinema203 4月の上映



和歌山市中ノ店北ノ丁22
北ぶらくり丁会館 203号室
090-8172-7074

cinema203.com



🎬 「幸せの国」ブータンからの春風が紀伊半島を南下 to 田並劇場

今年の春は、気持ちいい映画を見て過ごしたい——やってきたのはブータンの話題作です。日本の国交樹立 25 周年となった 2011 年には、新婚ホヤホヤの国王夫妻が来日。素朴で初々しい様子が旋風を巻き起こし、「幸せの国」ブータンは一気に我々の憧れの国になりました。

ネットやスマホのない世界。お坊さまや先生が、地域の師として尊敬され大切にされる場所。国民総幸福量を増やすのは誰なのか？ 心洗われる 2 本でぜひご覧ください。



『お坊さまと鉄砲』The Monk and the Gun

監督・脚本：パオ・チョニン・ドルジ

出演：タンディン・ワンチュック、ケルサン・チョジエ、タンディン・ソナムほか

提供：マクザム 配給：ザジフィルムズ、マクザム

(2023 年／ブータン、フランス、アメリカ、台湾／ゾンカ語、英語／112 分)

🎪 田並劇場 出張上映 ●5/2(金) 18:00 ●5/3(土) 9:45 | 14:00



◆ 特別上映 ◆

『ブータン 山の教室』A Yak in the Classroom

監督・脚本：パオ・チョニン・ドルジ

出演：シェラップ・ドルジ、ウゲン・ノルブ・ヘンドゥップ、ベム・ザムほか

配給：ドマ

(2019 年／ブータン／ゾンカ語、英語／110 分)

🎬 自由に生きる誇り高き女エテロより「美しさと快適さを ONLY FOR YOU」

ヨーロッパとアジアの交差点ジョージアは、ワインのほかに、スターリンの出身地としても知られる国。今年 40 歳になる女性監督より、春の強力パンチをお届けします。

黒ツグミのようなクリクリの瞳に魅入られ、ひととき目が離せないエテロは 48 歳。保守的な村でひとり、年上の女たちから憐れまれようが怯まず生きる。自分の役割は自分で決める。そんな彼女の“革命的”な毎日に、“事件”は起きた……。

監督がインタビューで語る言葉を、すべての女性に贈りたい。「エテロのような人は身のまわりにいます。映画の主人公になることはなかっただけで、現実には確実にいます」お帰りはにぜひ、美味しい白いケーキをゆっくりどうぞ！



『ブラックバード、ブラックベリー、私は私。』

Blackbird Blackbird Blackberry

監督：エレネ・ナヴェリアニ

原作：タムタ・メラシュヴィリ

出演：エカ・チャヴレイシュヴィリ、テミコ・チチナゼ

協力：大阪アジア映画祭／配給：バンドラ

(2023 年／ジョージア=スイス／ジョージア語／110 分)

🎬 それは中和か増強か——“一筆書き”で恐怖を描く圧倒的な“アート”の原動力

チェコにヤン・シュヴァンクマイエルがいるように、チリからはレオン&コシーニャが現れました。クラシカルでアナログな作風にこだわっているように見えて、何か徹底的に新しい……悪夢にうなされるような、夢心地で見入ってしまうような圧倒的なウソの時間。気が遠くなるような面倒な作業を、世界中の“人前”で、設計図なく進めていくという手法は、よほどの思索とたゆまぬ疑念がなければ実を結ばない気がします。ピノチェト政権の真ん中あたり、1980 年に生まれた 2 人が醸す、軽い重さ、重い軽さに少し眩暈をもよおしました。



『ハイパーボリア人』Los Hiperbóreos

監督：クリストバル・レオン、ホアキン・コシーニャ

脚本：レオン&コシーニャ、アレハンドラ・モファット

出演：アントニア・ギーセン

(2024 年／チリ／スペイン語・ドイツ語／71 分)

『オオカミの家』La Casa Lobo

監督：クリストバル・レオン、ホアキン・コシーニャ

声の出演：アマリア・カッサイ、ライナークラウゼ

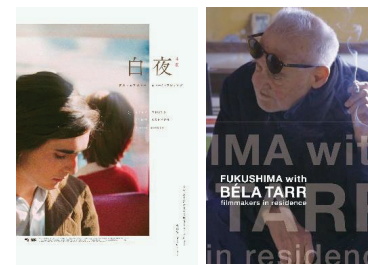
(2018 年／チリ／スペイン語・ドイツ語／74 分)

🎪 『地球は女で回ってる』『女は男の未来だ』そして 『女っ気なし』のその先へ

3 月はプログレッシブな 70 年代を満喫！カルチャーが高級かつ本気の遊びであった贅沢な時代を、あらゆる世代の皆さんと一緒に追体験させていただきました。感謝！ 年度末に忙殺された方々に向けて『白夜』とタル・ペーラ監督の“福島映画教室”2 部作は、4 月も少しずつ続映します。リピートも歓迎（500 円引）。



4 月の上映を悩んでいたある日、1 通のメールが届きました。「これは絶対に 203 で上映するように」かつて築映ビカデリーでバイトしていた和歌山出身の映画人、松竹の照明チーフ土山正人さんからの上映指令は、『お坊さまと鉄砲』でした。私を知る中で最も多くの映画を最も多岐に渡ってご覧になっている方と、大ヒットした前作を和歌山上映してくれていた田並劇場にリスペクトを込めて、和歌山 2 箇所でも上映します。



以上続映

ブータンから、ジョージアから、そしてチリから。やはりこれは、女性の時代なのではないでしょうか。あるいはウディ・アレンの時代から、地球は女で回っていたのでは……ということで、初夏に向けても、すばらしい女の世界を見せてもらいたい。作品、鋭意準備中です。御期待ください。



5 月はお待たせしました。2 月のデプレッションに続いて、ゴダール追悼作品第二弾です。かつて「ゴダールの再来」と呼ばれたレオス・カラックス監督の 42 分は、ふたたび息すらも止めてご覧ください。

『天国の日々』は、「再発見：魔法の時間」としてお届けします。失われた時は求めない。それでも、忘れない。そんな 5 月になりそうです。

(北ぶらの秘密より)



and more

🎪 4/19(土)15:00-17:00 「ブータン刺繍」ワークショップ参加申込受付中！（北ぶら BASE で開催！）